

敬天愛人

西郷南洲翁揮毫

ホームページ検索  
南洲吟道会と入力

## ご挨拶

理事長 吉永龍陽  
会長 吉永龍奏

会員の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。

去る5月6日、当会の吟詠フェスティバル「令和七年度春季温習会」が、野方区民ホールにて開催されました。渡邊剛康先生の生演奏のもと、それぞれに工夫を凝らした発表がなされ、和やかで楽しいひとときとなりました。皆様のご活躍を拝見し、大変嬉しく存じます。ありがとうございました。

また、4月6日には奄美大島にて全国大会が開催され、私ども2名に加え、猪浦副会長・手塚副会長、吉澤さん、大塚さん、西谷さん、山田さん、小室さん、新妻さん、小櫻さんの計11名が参加いたしました。西郷南洲翁ゆかりの地にて、当会一同による合吟『敬天愛人』を堂々と披露することができ、大変意義深い経験となりました。さらに、吟士権・漢詩奥伝以上の部門においては、小櫻梢城さんが最終審査に挑み、見事吟士権を獲得されました。本人の日頃の努力と、皆様のご声援の賜物と存じます。心よりお祝い申し上げますと共に、今後の活躍を期待致しております。

今回の全国大会は、都内近郊での開催が予定されております。ぜひ多くの皆様にご参加いただけますよう、ご案内申し上げます。

## 会報 「敬天愛人」第六十二号

発行日 令和七年七月十五日  
編集人 南洲吟道会 広報局 手塚憲龍  
発行人 南洲吟道会 理事長 吉永龍陽・会長 吉永龍奏  
発行所 〒一六五・〇〇三五 東京都中野区白鷺二・三四・五

一方で、長年にわたり当会の会計および副会長としてご尽力くださった川村龍暢様のご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。川村さんが最期まで大切にしてくださった「月会費300円」というかたちは、今後とも変わらず守り続けて参ります。とはいえ、必要が生じた際には、理事会の承認を経たのち、ご賛同いただきたく、何卒ご理解のほどをよろしくお願い申し上げます。健康あつての吟活動、健康を支える吟活動。末筆ながら、皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

## 吟詠フェスティバル春季温習会を終えて 実行委員長 猪浦龍雅

このたびの南洲吟道会春季吟道温習会では、日本吟道学院常務理事・広報本部長の渡邊剛康先生に伴奏をお願いし、快くご担当いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

当日は、開会宣言、国歌斉唱、吟道精神唱和、大合吟「敬天愛人」、会長挨拶により、厳かに開会。第一部は吉永龍陽理事長の吟詠、第二部から第五部までは会員の吟詠・詩舞、第六部では日本吟道の受賞者による記念吟詠、第七部以降も和歌、俳句、新体詩、琵琶、教場別の吟詠・詩舞・歌謡吟詠、役員吟詠など多彩な構成で、計十四部にわたり行われました。最後は花笠音頭で盛り上がり、副委員長の閉会の辞で幕を閉じました。

渡邊先生の力強く繊細な伴奏が吟者の力を引き出し、素晴らしい会となりました。理事長・会長をはじめ、各教場の先生方のご尽力に深く感謝いたします。今後も「敬天愛人」「吟道報恩」を旨に、健康と情熱をもって精進し、詩吟を楽しんでまいります。皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

**訃報**

**川村美津子（龍暢）様**

令和七年六月十三日、川村美津子様が八十八才と十一ヶ月でご永眠されました。南洲吟道会において、副会長・経理局長を歴任され、在籍四十五年の長きに渡り、お勤め頂きました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。南洲吟道会への献身的な功績は大であり、会員一同、感謝を申し上げます。告別式は令和七年六月二十日、道灌山会館にて執り行われました。南洲吟道会より生花をお供え致しました。六月十五日に吉永龍暘・吉永龍奏・児玉龍智の三名で文京くすのきの郷に弔問に伺い、ご冥福をお祈り申し上げます。



川村美津子 様  ご遺詠



懇親会にて  故川村美津子 様

**新入会員**

- 洲神会  木村陽子  入会日 令和六年十二月十七日
- 洲神会  田丸久代  入会日 令和七年二月一日
- 洲神会  永井福枝  入会日 令和七年五月一日

**お知らせ**

長い間ご担当頂きました安永龍珀様が経理局長を辞任され、後任は児玉龍智様にご就任頂きました。最近のご様子をお伺いいたしましたところ、体調があまりすぐれないからとの事を理由に、辞任の申し出があり、お受けいたしました。今後は、新たに相談役にご就任頂きましたので、ご助言などをお願いいたします。吟を通して健康に。これからもお元気にお過ごしいただきます。

**令和七年一月以降  総本部・地区本部・本会の主な行事**

◆令和七年賀詞交歓会

日時  令和七年一月十二日（日）  会場  日本吟道会館ホール  
出席者  猪浦龍雅  手塚憲龍  吉澤強祥  合吟「日本を愛す」

◆新春を寿ぐ  薩摩琵琶 ワークショップ

日本文化を楽しんでみませんか  大成功でした。  
日時  令和七年一月十八日（土）  十四時三十分開演  
会場  ナカノバ（中野区役所内1階イベントスペース）  
プログラム

オープニング 「富士山」  吉永鶴奏  
「蓬萊山」小櫻暘梢  松井奏悦  野田奏桃  
敦盛より「祇園精舎」の一節  松井奏悦  
ワークショップ「蓬萊山」

特別出演「川中島」吟詠  茂呂真龍  
映像  中川晋也

応援  長友暘瑤  吉永龍暘  猪浦龍雅  児玉龍智  大塚龍優  西谷龍邦  
  山田龍璽  齊藤龍優  藤田龍香  吉澤強祥  安齊治城ご夫妻  
  秋山政水  中村眞水  木村陽子  田丸久代  羽田  遥  茂呂奥様  
  茂呂お嬢様  五十嵐ゆり  その他大勢のご声援頂く  約50名

◆東京地区一般講習会

詩吟は読みの世界へ楽しく吟じ正しい読みで吟力アップ

日時  令和七年二月十一日（祝・火）  会場  小松川区民館  
講師  日本吟道学院相談役  富士吟道会会長  
出席者  吉永龍奏  山田龍璽  小櫻梢城

◆日本コロムビア定時総会  会長出席

日時  令和七年二月十五日（土）  会場  熱海金城館  
課題吟CD「曙椿」に於いて吉永龍奏『雪梅』吹込み発売中

◆琵琶と朗読の語り(長友陽瑤)

日時 令和七年三月二十五日(火) 会場 学園都市センター

◆薩摩琵琶鶴田流琵琶保存会主催 第一回 定期演奏会

日時 令和七年三月三十日(日) 会場 鏡仙会能楽研修所

吉永鶴奏 演奏「那須与市」

応援 吉永龍陽 長友龍瑤 猪浦龍雅 大塚龍優 西谷龍邦 藤田龍香・

ご友人 吉澤強祥 秋山政水 木村且城 田代久水 吉永浩和

小櫻梢城・ご主人様 中川晋水 松井奏悦 伊藤奏轉 その他多数

◆第六十回 日本吟道青少年幼年全国大会&壮心の集い

日時 令和七年三月三十一日(月) 会場 すみだトリフォニーホール

出演 吉澤龍麗「幾山河」

応援 吉永龍陽 齊藤龍優 萩野進龍 役員 手塚憲龍 吉澤強祥

◆祝 日本吟道学創立四十五周年記念

第七十五回 吟道が結ぶ世界平和 日本吟道全国大会&吟行研修会

日時 令和七年四月六日(日) 会場 奄美振興会館「奄美川商ホール」

吟行研修会 四月五日(土)・四月七日(月)



南洲吟道会一同による大合吟「敬天愛人」



南洲吟道会一同による余興「おてもやん」

合吟 奄美大島めぐり 西郷南洲翁遺訓「敬天愛人」

吉永龍陽 吉永龍奏 猪浦龍雅 手塚憲龍 西谷龍邦 大塚龍優

山田龍瓔 小室慶龍 吉澤強祥 小櫻梢城 新妻眞水

実行委員 手塚憲龍 吉澤強祥

日本吟道吟士権者獲得

漢詩奥伝の部「涼州詞」東京地区代表 小櫻 梢

創立四十五周年記念 功労者表彰 宗元・元老 吉永龍陽



吉永龍陽先生 宗元・元老に顕彰さる

高齢者特別表彰

◎スーパードイヤモンド表彰 赤池龍徳

◎ダイヤモンド表彰 横山龍治・安永龍珀

◎ゴールド表彰 野澤純祥・川村龍暢・曾根龍富・長友翔龍

小室慶龍・藤田龍香・吉永龍陽・猪浦龍雅

奄美大島吟道全国大会に参加して

期日 4月5日(土)～4月7日(月)

鷺宮教場 新妻眞城

以前から西郷南洲流謫跡や奄美大島に興味があり、観光気分に参加したのですが、そういう気楽な理由だけでは済まず、合吟もあるため、少々ドキドキしながらの参加です。

当日は羽田空港集合で、大勢の乗客に圧倒されました。多分皆さん、全国大会の参加者なのでしょう。飛行機の中で昼食をすませ、奄美に到着後は

のんびりと観光。思っていた以上のコバルトブルー・エメラルドグリーンとたとえられないぐらいきれいな海でした。小高い丘のような山々は目にやさしい新緑で、一年中この風景が楽しめるそうです。南国独特の草花もステキでした。

ホテル到着後、皆で夕食へと出かけました。お一人参加のみちのく吟友会の山田龍妙先生をお迎えし、総勢10名で飲食店を探して歩きました。しかし南国時間で早いのか、予約が必要なのか、なかなか見つからず迷っていたところ、声をかけて頂き、カラオケスナックで午後8時までは食事が出るとのことで入店。メニューも豊富で揚げ物や鮪の漬け丼等、美味しく頂きました。8時以降はカラオケ営業で、他のお客さんが入店したら退店しなくてはと思われたのですが、貸し切りでした。カラオケをどうぞと言われ、広い店内で合吟練習をさせて頂き、とてもラッキーでした。

全国大会当日、奄美の町はたくさんの方の幟旗で、歓迎ムード一色です。

南洲吟道会一同の合吟、小櫻梢さんの応援を無事終了。小櫻さん、吟士権者認定おめでとうございます。

最後の懇親会は琉球舞踊や三線の演奏と奄美市長のカラオケ等があり、最後は全員での盆踊り、まるで奄美踊りのような盛り上がりでした。鹿児島吟道会と奄美支部、喜界島支部の皆様、たくさんのお土産ありがとうございました。一日早く乗り込み、準備された大会実行委員の方々、手塚さん、吉澤さんお疲れ様でした。

あつと言っ間の3日間でした。とてもとても楽しかったです。

### ◆南洲吟道会春季昇段審査

日時 令和七年四月二十日(日) 午後一時三十分 会場 白鷺高齢者会館  
審査結果 合格です。ご活躍を願います。

二段 内川研吟 初伝 市橋富吟 三段 齋藤和洲 五段 田丸久水  
五段 足立英水 六段 澤口三水 六段 秋山政水 奥伝 中川晋城  
七段 新妻眞城 七段 木村且城 秀伝 吉澤強龍

### ◆吟詠フェスティバル 南洲吟道会温習会

日時 令和七年五月六日(祝・火)  
会場 野方区民ホール  
参加者

吉永龍暘 市橋富吟 内川研吟 横塚克吟  
齋藤和洲 田丸久水 澤口三水 秋山政水  
中川晋水 新妻眞城 安齊治城 木村且城  
小櫻梢城 春山美祥 野澤純祥 岩田幸祥  
佐藤千祥 杉本陽祥 吉澤強龍 戸田進龍  
茂呂真龍 古室慶龍 足立英水 大塚龍優  
吉澤龍麗 山田龍瓔 稲葉龍誠 西谷龍邦  
永田龍游 藤田龍香 安永龍珀 齊藤龍優  
萩野進龍 加藤龍孝 児玉龍智 長友龍瑤  
手塚憲龍 猪浦龍雅 吉永龍奏

伴奏キーボード 渡邊剛康先生

各教場別吟詠写真は南洲吟道会HPの行事・催事案内をご覧ください。

### 詩吟とのご縁、そして感謝

奏音教場 秋山政水

私は舞台に立つと、緊張して絶句してしまうことがあります。そんな私を気遣い、吉永龍奏先生は五月六日の温習会に際して、詩文をB5の大きな用紙にコピーして下さり、「絶句しないように」と温かいご配慮を下さいます。このご厚意に、心より感謝申し上げます。

龍奏先生と共演させて頂いた「姫百合の塔」は、私にとって最も誇らしく、そして生涯忘れえぬ大切な思い出となりました。思えば四十才の頃、市川市内の老人ホームでのボランティア活動の中で独吟したのも「姫百合の塔」でした。長文の吟詠で苦勞もりましたが、今なお心に残る吟詠のひとつです。



南洲吟道会春季温習会出演者一同

詩吟の世界には、二十九才までまったくご縁がなく、それまでは山登りやサイクリングを楽しんでいました。ある時、家庭訪問に来られた警察官の方に誘われて訪れた教室が、「詩吟朗詠錦城流」でした。教場長が吟じられた「楓橋夜泊」に深く感動し、迷わず入会を決定しました。

その後、五十代中頃までに三カ所の教場に学びましたが、仕事の都合でやむなく退会することとなりました。数年後、友人に誘われて出かけた琵琶の演奏会で、二十名の出演者の中に吉永龍奏先生がおられました。そのご演奏があまりにも素晴らしく、友人を通じて南洲吟道会へ入門をお願いして今日にいたっております。

五月二十五日には国分寺市吟詠詩舞大会に参加させて頂き、誠にありがとうございました。大きな舞台での発表は緊張の連続ではありましたが、無事に終わってホットいたしております。

会員の皆様、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



琵琶演奏・合吟 「姫百合の塔」

◆**監査会** 五月二十二日(木) 午前十時より本部にて開催  
長友翔龍監査役 稲葉龍誠監査役より受けました。

◆**国分寺市吟詠詩舞連盟「春季大会」**

日時 令和七年五月二十五日(日) 十二時半～  
会場 国分寺市立いずみホール  
出吟者 市橋富吟 秋山政水 安濟治城 春山美祥 岩田幸祥 吉澤強祥  
杉本陽祥 佐藤千祥 早乙女恵龍 手塚憲龍 猪浦龍雅  
応援 茂呂真龍 秋山政水・出吟

◆**第二十回 鶴場会おさらい会**

日時 令和七年五月三十日(金) 会場 なかの芸能小劇場  
大勢のご声援ありがとうございました。鶴奏

◆**日本伝統文化吟友会東京大会** 野方区民ホール

日時 令和七年五月三十一日(土) 会場 野方区民ホール  
漢詩四部 第三位 茂呂肇 入賞 山田恵美子 優秀賞 齊藤優子  
漢詩三部 入賞 吉澤強

◆**日本吟道学院総会** 四谷主婦会館

日時 六月七日(土) 午後二時 出席者 吉永龍場 稲葉龍誠 山田龍瓊

◆**福井 中嶋宗聖先生四十五周年記念大会出吟**

日時 令和七年六月八日(日) 福井 吉永龍奏 『竜虎』新作

◆**南洲吟道会 総会(総務局)**

日時 令和七年六月十五日(日) 会場 白鷺高齢者会館  
出席者 三十二名 委任状十二名 議事承認を受けました。

◆**令和七年 南洲吟道会 講習会(指導局)**

日時 令和七年六月十五日(日) 会場 白鷺高齢者会館

「しっておきたい吟詠指導の基礎知識(至誠塾より学んだこと②)」

① 創立者のことば 創始総裁・渡辺龍神

② 吟詠七則

③ メリハリの効いた美しい発声要領

④ 全国吟詠コンクール一般審査の実態と注意点

⑤ 魅力ある吟声をもとめて

⑥ 世界の誇る日本の四季 各教場発表

講師 副会長・至誠塾一期生 猪浦龍雅氏  
出席者 三十一名

◆所沢狭山ヶ丘吟詠のつどい

日時 令和七年六月二十八日(土)  
出演 児玉龍智「山中問答」 小室慶龍「母を奉じて嵐山に遊ぶ」

会員投稿欄

提案 今後の会費納入について 鷲宮教場 稲葉龍誠

これまで、年度会費は会員の皆様に個別で納入していただいておりますが、今後は以下のような方法に変更してはどうか。年度初めに、本部正会員会費および年会費について、納入期限をあらかじめ定め、所定の期日までに納入していただく方式とすることを提案いたします。その際、会長名で通知文を作成し、会員の皆様にお知らせいただければ良いと思います。納入状況については、後日、教場長よりご報告していただく形で運用できると考えます。なお、教場の会費についてはこれまでの方法で差支えないと思います。(以上、ご検討くださいますようお願い申し上げます。)

令和七年七月以降 総本部・地区本部・本会の主な行事

◆日本コロムビア全国吟詠コンクール東京地区決選会

日時 令和七年七月十二日(土) 会場 調布グリーンホール

◆日本吟道東京地区全国吟詠コンクール予選

日時 令和七年七月十二日(土) 会場 文京シビック

◆日本吟道夏季吟道大学

日時 令和七年八月二十二日(金) 会場 北トピア

◆東京地区吟詠フェスティバル・壮心大会

日時 令和七年九月七日(日) 会場 文京シビック

◆本会秋季昇段審査会

予定 日時 令和七年九月二十八日(日) 会場 白鷺高齢者会館

◆令和七年度日本吟道全国吟詠コンクール決選大会

日時 令和十月六日(月) 会場 北トピア

◆千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉誦

日時 令和十月十八日(土) 会場 千鳥ヶ淵戦没者墓苑

◆南関東地区指導者育成推進講習会

日時 令和十月二十六日(日) 会場 文京シビック

◆第29回日本吟道名吟大会

日時 令和十一月二十五日(火) 会場 北トピア

◆本会理事会

予定 令和日時十二月二十日(土) 会場 白鷺高齢者会館

◆新春賀詞交換会

令和八年一月十一日(日) 会場 日本吟道会館ホール

◆東京地区一般講習会

日時 令和八年二月十五日(日) 会場 文京シビック

◆第60回青少年全国大会・壮心の集い

日時 令和八年三月下旬 会場 日本吟道会館ホール

◆予告 令和七年九月四日(木) 広島 吉永龍奏公演

神事に込める誠く平和への祈りを音に託してく 吉永龍奏詠う

企画趣旨および開催に伴うご協賛のお願い

拝啓 盛夏の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。このたび、出雲大社広島分祠様のご理解とご協力を賜り、「被爆八〇年祈念神事に込める誠く平和への祈りを音に託してく」と題する奉納演奏企画を開催する運びとなりました。

本企画は、戦争の記憶と平和の尊さを、伝統芸能の力を通じて次世代へと継承することを目的としております。被爆から80年という節目に、広島の地よりあらためて「平和の祈り」を発信したい——その強い思いが、本企画の原点です。現代は、物質的な豊かさの一方で、心の平安や命の尊さが見過ごされがちな時代です。そうした今だからこそ、古来より人々の魂に寄り添ってきた詩や漢詩、そして琵琶の響きが、静かに、しかし確かな力で人の心に訴えかけると信じております。

奉納演奏を務めるのは、吟詠家・吉永龍奏（旧名・吉永典子）。戦後世代として、「記憶の継承」と「命の讃歌」をテーマに、心を込めた演目をお届けいたします。

吉永は2025年に吟詠歴五〇年を迎えますが、本企画は単なる記念公演ではなく、自身の経験と背景を通して、社会に対して平和と命の尊さを問いかける活動として取り組むものです。吉永の実父は、広島幼年学校在籍中、疎開により被爆を免れた経験を持ち、本人にとっても広島は特別な思い出のある土地です。戦後七〇年以降、千鳥ヶ淵戦没者墓苑における慰霊祭では、昭和天皇陛下の御製を奉誦するなど、平和への祈りを活動の中心に据えてまいりました。

また、2023年6月には、高野山金剛峯寺にて、弘法大師御誕生1250年記念大法会に際し奉納演奏の機会を頂戴しました。霊性と芸能の交差する場でのこの経験は、自身の表現の根源を見つめ直す大きな契機となりました。

その前年には、脳出血を経験し、静養を余儀なくされ、命と向き合う時間を持ったことで、「伝えるべきことの重み」や「語り継ぐ責任」を、改めて深く自覚するに至りました。このような背景を経て、本企画は「個の声」であると同時に、「世の声」——すなわち平和を願う多くの方々への想いを代弁し、共鳴する祈りの場として開催するものです。

つきましては、本企画の趣旨にご賛同賜れます折には、ご協賛もしくはご後援という形で、温かいご支援を賜れましたら幸いに存じます。

ご支援いただいた皆様には、当日のパンフレットや会場掲示にて、感謝の意を込めてご芳名を紹介申し上げます。何卒ご高覧のほどよろしくお願い申し上げます。敬具

令和七年六月吉日

吉永 龍奏（旧名・吉永 典子）

令和七年九月四日 十八時三十開演 出雲大社広島分祠神楽殿

### 編集後記

六月より厳しい暑さが続いておりますが、会員の皆様にはお変わりありませんでしょうか。

会員の皆様のご支援・ご協力のお陰によりまして、会報62号も無事発行の運びとなりました。コロナ禍を経て活動も徐々に平常へと戻りつつありますが、会員の高齢化や若年層の参加減少という課題は依然として重くのしかかっています。AIやデジタル文化が加速度的に進展する中、声を通じて心を磨く詩吟の価値はむしろ今こそ見直されるべきでしょう。時代の風に柔らかな身を委ねつつも、変わらぬ精神を守り続ける——そんな在り方を大切にしたいと思えます。今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（広報局）

広報局長 手塚憲龍 広報部長 萩野進龍  
編集部長 佐藤千祥 HP担当 菊地 務